

36 秩父学園における新型コロナワクチン集団接種への取り組み

秩父学園 療育支援課 岡元照秀、佐久間裕子、清水智恵
山崎さやか、原島二三子、堀越徳浩

【はじめに】

2019 年 12 月、中国より始まった原因不明の肺炎は「COVID-19」新型コロナウイルス感染症と名付けられ、世界規模のパンデミックを引き起こした。秩父学園でも感染対策の一環としてマスク着用・手指の消毒を実施したが、こだわりや過敏など特性上の問題から協力できる児童は限られた。また、生活様式の変化についても理解が得られにくく、ひとたび感染が持ち込まれると秩父学園では集団感染を起こしやすいことが再認識された。国や自治体は感染を防ぐ効果と重症化を防ぐ効果に期待しワクチン接種を勧奨していたが、2023 年 5 月 8 日「5 類感染症」へ見直され各地での集団接種も取りやめとなった。感染対策を講じることの難しさや医療受診が困難な児童を抱える秩父学園にとって、集団感染を防ぐためにもワクチン接種の必要性・接種方法が課題となった。

【対象】2023 年 8 月～12 月の期間に秩父学園に入所している 12 歳以上の児童 41 名。

【支援内容】埼玉県保健医療部ワクチン対策が高齢者施設・障害者施設へ医療スタッフを派遣し、入所者や職員へ集団接種を行う「ワクチンバス」事業に応募。2023 年春接種、秋接種の 2 回の集団接種を実施した。秩父学園内に集団接種会場を設け、ご家族から接種の同意のあった児童及び職員（希望者）を対象に実施。会場に行くことが難しい児童については、個別対応として居室に職員が出向き対応。希望する全ての児童へ接種ができるよう特性に応じた配慮を行った。

【結果】8/26 モデルナ社製（BA. 4/5）児童 25 名。

12/17 モデルナ社製（オミクロン株対応 XBB1.5）児童 25 名。

児童の接種回数（6 回 17 名／5 回 11 名／4 回 8 名／3 回 1 名／1 回 1 名／未接種：3 名）

【考察】接種する機会が増える度にワクチン接種への同意は減るものの、ご家族の多くが接種に協力的と言える。ご家族は、子どもが医療受診（通院・入院）することの難しさや休校や面会禁止などの自粛を経験したことで、日常生活が崩れることへの影響を理解している可能性が考えられる。また、秩父学園は集団生活の場であるため、子どもの健康だけではなく、他児童の健康への配慮も考えられ、ワクチン接種の必要性を理解し、協力的であった可能性が考えられる。

【まとめ】秩父学園では児童の特性上、感染が持ち込まれると集団感染を起こしやすい。ひとたび感染が広まると、生活に制限が生じスケジュール通りの日課を行うことができなくなる。変化を好まない児童にとって予期せぬ日課の変更は不安を招き、不調や問題行動の要因となる。秩父学園にとって日常生活を維持することは、入所している児童の生活を守ることであり、安心・安全な生活を提供する基盤である。基本的な感染対策を講じることの難しい児童にとって、集団感染を予防する効果が期待できるワクチン接種は必要な医療行為であると、必要性についてご家族も理解している可能性が考えられる。一方で、5 類感染症と移行したことも影響しワクチン接種の需要は減りつつある。個別での医療受診が困難な児童にとっての集団接種は、学園の感染対策にも関わる問題として、今後も検討する必要がある。